

漁業経済学会 短 信

第 4 1 回漁業経済学会大会に参加して

近畿大学大学院 岡 田 充 弘

去る5月28、29両日にわたり、第41回漁業経済学会が近畿大学農学部（奈良キャンパス）において開催された。こういった学会への参加自体、経験の乏しい小生はいささか張りつめた気持ちで会場へと向かった。折しも学会前日にテレビ、あるいは新聞で「国際捕鯨委員会で実質的に捕鯨継続の可能性が絶たれた」と大々的に報道されて、新しい国際海洋利用秩序の確立や冷戦終結等による新しい国際秩序の形成云々がはやし立てられていた。その意味で、「漁場利用体制の国際的動向に

ついて」というテーマでのシンポジウムが後半の日程に組み込まれていたこの第41回大会が、漁業経済学会関係者に限らず、社会全体からも注目される内容であることは簡単に予想できた。予測される白熱した議論に、小生のような不勉強かつ視野の狭い若輩がどこまで内容を理解できるか、不安は尽きなかった。

第一日目には、20近くにもおよぶ個人報告が2会場に分かれて発表された。そのため、物理的に全報告をお聞かせいただくことは不可能であったが、報告の内容は多岐にわたり、聞き応えがあった。小生が拝聴できた報告に限っても、「国際的漁業管理における不確実性と合意形成」（三重大 佐久間美明氏）や「OECD水産委員会の漁業管理研究」（中央水研 中西孝氏）のような国際的視野に立っての漁業管理研究あり、「資源利用からみたサケマス増殖事業の国際比較」（東水大 中野・水口両氏）、「アイスランド漁業とそ

目 次

- | | |
|---------------------|---|
| 1, 第41回大会に参加して..... | 1 |
| 2, 「私の近況」近藤康夫..... | 3 |
| 3, 大会報告..... | 3 |
| 4, 在京理事会報告..... | 5 |
| 5, 事務局からのお知らせ..... | 6 |

の管理政策—経済政策としての考察—」（中央水研 黒沼吉弘氏）のような諸外国の漁業問題に関する研究もあって、非常にグローバルな内容のものが多いという印象を受けた。

そのなかで、境一郎氏の「ホタテガイ栽培漁業の技術革新と漁業経営」の報告でご紹介いただいた、一漁家一億円の貯金の事実—こういう事実は一般的であるとはいえないとしても—ただならぬ刺激を覚えた。小生が一昨年日本海沿岸の数箇所の漁村において聞き取り調査を実施した際に、漁村は後継者不足や嫁不足、さらには若年層の都市部への流出等、深刻な問題を数多く抱えていることを知り、ついつい悲観的な目で漁業を捉えがちになっていた。ところが氏の報告をお聞きして、新鮮な気持ちにさせられたばかりでなく、自己の認識不足を恥じると同時に、これからの日本の漁業はまだ多くの可能性を秘めていると感じさせられた。しかしながら、当初より危惧していた通り不勉強が災いし、せっかくの貴重なご報告にもかかわらず十分に内容を咀嚼するまでには至らなかったものも少なくなかった。「視野の拡大・知識の拡充」が今後の課題として残り、深く反省させられる結果となってしまった、というのが正直なところである。しかしこうした意味からも、小生のような者にとってはこのような大会に参加させていただくこと自体、多岐にわたる数々のご報告をお聞かせいただくことができ、有効な自己啓発になるという点で大変有意義なものであると、このように解釈している。

翌29日のシンポジウムでは「漁場利用体制の

国際的動向について」というテーマのもとで、5名の先生方が講演を行った。そして午後からは諸先生方により白熱した議論が交され、あらゆる角度からさまざまな見解が出されていた。いずれのご報告もそれぞれの視点からそれぞれの課題を鋭く解析されたものばかりで、小生にはやはり内容が高度すぎたことは予想通りであった。

小生が常々ご指導を賜っている近畿大学の榎彰徳先生のご報告では欧州諸国における漁業管理について考察され、EU統合の議論がなされているような欧州という世界の一部分においても、国間の利害関係や資源管理利用調整等、漁業管理に関して提起される問題が山積みしている現状が紹介された。シンポジウムのテーマからして、これから「国際的」という言葉のもとに全世界のそれを包括して考えていこうという試みは、なおさら難しいと、漠然と問題の大きさに頭を抱えていた。

また、草川恒紀氏（東海大学）の「個別割り当に基づく漁業管理」というテーマでのご報告では多くを勉強することができた。これまで小生は資源管理における「個別割当」という言葉を漠然とした概念で使用していることが多かったが、それが本来意味するところを知って、認識が深められた。

ともあれ、夕刻には第41回漁業経済学会大会は成功裡に二日間の日程を終え、多数の参加者の方々はそれぞれの立場で、それぞれの刺激を受けたに相違ないと思う。それは小生のような稚拙な者にも非常に有意義な二日間であったからである。

〈 会員動向 〉 「私の近況」

近 藤 康 夫

漁業経済学会 の総務 浜田さん から 学会の『短信』へ 近況 を書けというお手紙を頂いたとき 私は漁業経済学会 創立のころのことを思い出しました。そして 私が 書斎のようにしている 農文協図書館へ行って 水産関係の棚を眺めたら 何か 皆さんに 書けることを思い出さだろう と考えました。 あそこには数年前に 学会三十周年記念講演であいました。久宗さん 高橋さん と三人で 学会創立の頃の思い出を 水産大学で お話した記録が保存してある筈だと思いました。

その時 ふと頭に浮かんだのは、「漁業経済学会」という 命名 についてあの時に話したかどうか という疑問であります。「水産経済学会」とはせず「漁業 経済学会」となるのに 私は関与した記憶が あります。

水産物を獲るのではあるが、いかなる権利関係の下で 資本と労働が 結びあって 行われる生産— それを研究認識すること—が われわれの課題の中心である、生産の場を中心 とした

経済研究だ、という 考えであったと 思います。

その考えは 私は今日も同じです。日本沿岸が汚れて 漁業ができなくなり、外国で 外国船で獲った 魚が 支配的になる時が 来れば「水産経済学会」 にならざるを えないと思いますが そうなることのないことを 願いたします

当年 私は九十五才、耳と眼が 駄目 になりましたから 聡明 さが ありません。残る眼は眼底を やられて 筆先が見えない 字を書きますからご覧の通りの乱雑です ただ脚だけは比較的 健在で杖は不要、バスが 来れば反射的に 駆け出して乗 ろうと します

農文協図書館へほぼ毎日 出掛けます 夜九時に就眠 するのが 私唯一の健康法です

以上が 私の近況です。(一九九四.六.二四)
(近藤康男先生に原稿執筆をお願いしましたが、ご高齢にもかかわらず、早々に原稿を頂きました。本当にありがとうございました。先生の原稿を忠実に再現したのが上記文章です)

第 4 1 回漁業経済学会大会報告

5月28日(土)～29日(日)の両日、近畿大学農学部において第41回漁業経済学会が開催された。第1日目は19題の一般報告が行われた。第2日目のシンポジウムは「漁場利用体制の国際

的動向について」をテーマに実施され、両日とも多数の参加者を得て活発な討論がなされた。大会プログラムは以下の通りである。

〈一般報告〉

207会場

- 207-1. 国際的漁業管理における不確実性と合意形成
三重大学 佐久間美明
- 207-2. 沿岸域における固定式刺網漁業の漁場選択
東水大院 山口 由二
- 207-3. 琵琶湖のアユ沖すくい網漁業における漁獲量と価格の関係について
東水大院 鈴木 直樹
- 207-4. 霞ヶ浦・北浦の漁業生産金額に及ぼす環境と市場の影響について
東水大院 工藤・水口
- 207-5. 資源利用からみたサケマス増殖事業の国際比較
東水大院 中野・水口
- 207-6. 共同漁業権管理委員会の機能に関する検討—山口県共107号漁場の事例を中心に—
東水大 水口 憲哉

208会場

- 208-1. 国司浩助とトロール漁業経営
姫路女短大 足立 泰紀
- 208-2. 宮崎南郷小型船マグロ漁業の変遷と経営諸類型
水土舎 木下 明
- 208-3. 沖合底びき網漁業における経営展開の現段階と課題
北大 板倉 信明
- 208-4. ホタテガイ栽培漁業の技術革新と漁協経営
道漁連・鹿大 境 一郎
- 208-5. 変貌するインドネシアエビ養殖業と民衆交易の試み
日本福祉大 鈴木 隆史 2
- 08-6. 海外イカ釣漁業の生産特性と漁場選択条件—八戸の海外イカ釣漁業の分析から—

中央水研 三木 克弘

207会場（午後の会場は207会場のみ）

- 207-7. 水産物需要の分析
農中金総研 大塚 秀雄
- 207-8. 韓国の漁業と漁業管理
元 日大 山本 忠
- 207-9. 中国の漁業生産とその管理
日中農交常任委員 真道 重明
- 207-10. OECD水産委員会の漁業管理研究
中央水研 中西 孝
- 207-11. アイスランド漁業とその管理政策—経済政策としての考察—
中央水研 黒沼 吉弘
- 207-12. まき網漁業とサバ資源管理
中央水研 多屋 勝雄
- 207-13. 戦前期沖縄産鯉節の流通に関する一考察
沖縄水高・鹿大院 上田不二夫

〈シンポジウム〉

テーマ：「漁場利用体制の国際的動向」について
コーディネーター：長谷川 彰

報告：

1. 「漁場利用体制の国際的動向」について
長谷川 彰
2. 公海漁場の現状と課題
東水大 小野征一郎
3. ECの漁業管理の現状と課題—フィッシュボンド政策の10年とその評価—
近畿大学 榎 彰徳

4. 東海・黄海の漁場利用と漁業管理

長崎大学 片岡千賀之

5. 個別割当に基づく漁業管理

東海大学 草川 恒紀

コメンター：松田恵明（鹿大）・中西孝（中央水研）・山本忠（元 日大）

司会：倉田 亨（近大）・秋谷重男

〈総会議事〉

議長に酒井亮介氏を選出し、秋谷重男代表理事の挨拶の後、下記の議事について審議した。

1. 1993年度事業報告

1992年度活動報告、会誌発行、短信発行等。

2. 1993年度会計決算報告、監査報告（後掲資料参照）

3. 1994年度事業計画案

会誌編集計画、短信編集計画方針等が審議、了承された。また次回の第42回大会開催予定地やシンポテーマ等については決定に至らず、在京理事会に一任ということで了承された。

4. 1994年度予算案（後掲資料参照）

原案通り、了承された。

5. 学会賞選考委員会報告

学会賞、学会奨励賞ともに今回は該当者なしとなった。

6. 学会賞選考委員会の改選について

加瀬和俊・長谷川彰両氏の任期満了に伴う改選の結果、倉田亨氏、片岡千賀之氏が選出された。選考委員会委員は以下の通り。秋谷・大海原・小 野・廣吉・堀口（いずれも1995. 5月まで任期）、片岡・倉田（いずれも1996. 5月まで任期）。

在京理事会報告

1. 学会誌編集計画について

昨年同様、企画特集号を含め、年4回の発刊を堅持する。

2. 短信

年3回の発刊を予定している。会員動向欄への投稿を根気よくお願いしていきたい。

3. 次期大会開催地・シンポテーマについて

次期大会開催地は中央水産研究所（横浜市）に決定した。日程は1995. 5. 25（木）に全国理事会、5. 26（金）、5. 27（土）両日が個人報

告、シンポジウムとなった。

シンポジウムのテーマ、コーディネーターについてはなお最終決定するに至っていない。次回在京理事会で最終決定にこぎつけるべく、代表理事、事務局を軸に調整することとなった。

4. 日本農学賞の推薦について

日本農学賞の推薦候補の締め切りは11月上旬となっており、第2回在京理事会に先だって推薦著書等があれば、積極的に事務局まで連

絡下さい。

5. その他

学術会議（水産学）会員選出結果について
推薦人を引き受けて頂いた鈴木旭氏より「清

水誠氏（日本魚類学、日本水産学会）と隆島
史夫氏（日本水産工学会、日本水産増殖学会）
の2名が学術会議会員（水産学）に選出され
た」旨の連絡がありました。

事務局からのお知らせ

★新入会員の紹介

・渡辺浩幹（水産庁国際課）・工藤貴史（東水
大院）・大塚正人（東水大4年）・山川卓（三
重水技センター）・木下明（水土舎）・中野正
貴（東水大院）

★寄贈図書について

・降島・松田編『地球にやさしい海の利用』
（恒星社恒星閣）、93.9.5
・『平成5年度食品産業短期経済観測システム
開発研究調査事業報告書』（財）食品産業
センター、平6年3月

★『漁業経済学会第41回（奈良大会）報告要旨集』
を購入希望される方は事務局総務担当・濱田ま

でご連絡下さい。送料込みで1,000円です。

★学会・研究会のお知らせ

前記のとおり、第42回漁業経済学会は横浜市の
中央水産研究所で95年5月26日（金）、5月27
日（土）両日開催されますが、今年開催される
他学会の開催日程は次の通りですのでお知らせ
申し上げます。

・北日本漁業経済学会 '94年10月7日（金）
～10月8日（土）、塩釜市
・西日本漁業経済学会 '94年10月26日（水）
～10月27日（木）、松江市「ホテル白鳥」
・国際漁業研究会 '94年10月28日（金）
～10月29日（土） 東京水産会館

学会短信 No. 73

1994. 7

学会事務局

〒108 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学内

電話 03-3471-1251

【1993年度決算報告(1993.4～1994.3)】

1. 収入の部

大科目	小科目	予算	決算	決算-予算
会費		1,500,000	2,108,000	608,000
	一般会員		1,798,000	
	学生会員		60,000	
	賛助会員		250,000	
会誌売上		350,000	372,200	22,200
	事務センター扱		367,200	
	事務局扱		5,000	
カンパ		200,000	255,000	55,000
寄付金		600,000	250,000	-350,000
大会収入		160,000	248,000	88,000
	参会費		202,000	
	書籍売上		46,000	
刊行助成金		0	680,000	680,000
雑収入		20,000	2,175	-17,825
	銀行利息		409	
	その他		1,766	
当期収入合計		2,830,000	3,915,375	1,085,375
前期繰越金		880,726	880,726	0
収入合計		3,710,726	4,796,101	1,085,375

2. 支出の部

大科目	小科目	予算	決算	予算-決算
会誌等印刷費		2,500,000	2,276,546	223,454
	学会誌		2,172,424	
	短信		104,122	
通信発送費		200,000	167,668	32,332
	学会誌発送		45,117	
	その他		122,551	
事務局費		70,000	412	69,588
	消耗品		412	
会議費		200,000	305,300	-105,300
	理事会		74,200	
	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 打合(会議)		10,000	
	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ 打合(旅費)		177,000	
	編集委員会		44,100	
大会経費		160,000	171,588	-11,588
	教室使用料		46,286	
	要旨集印刷費		66,126	
	臨時雇用費		15,000	
	その他		44,176	
負担金		43,000	43,400	-400
	日本農学会		43,400	
雑費		10,000	0	10,000
小計		3,183,000	2,964,914	218,086
繰越金		527,726	1,831,187	-1,303,461
支出合計		3,710,726	4,796,101	-1,085,375

3. 財産目録(一般会計)

種類	預入先	金額
郵便貯金		9,936
普通預金	三菱銀行品川駅前	721,487
振替貯金		632,020
現金	手持ち	467,744
合計		1,831,187

4. 財産目録(特別会計)

種類	金額
定額貯金	300,000
	250,000
	100,000
	100,000
合計	750,000

【1994年度予算(1994.4～1995.3)】

1. 収入の部

科目	予算	前年度予算	増減
会費	1,650,000	1,500,000	150,000
会誌売上	350,000	350,000	0
カンパ	200,000	200,000	0
寄付金	450,000	600,000	-150,000
大会収入	270,000	160,000	110,000
刊行助成金	0	0	0
雑収入	20,000	20,000	0
小計	2,940,000	2,830,000	110,000
前期繰越金	1,831,187	880,726	950,461
合計	4,771,187	3,710,726	1,060,461

増減＝予算額－前年度予算額

2. 支出の部

科目	予算	前年度予算	増減
会誌等印刷費	2,500,000	2,500,000	0
通信発送費	200,000	200,000	0
事務局費	50,000	70,000	-20,000
会議費	250,000	200,000	50,000
大会経費	300,000	160,000	140,000
負担金	43,000	43,000	0
雑費	10,000	10,000	0
小計	3,353,000	3,183,000	170,000
繰越金	1,418,187	527,726	890,461
合計	4,771,187	3,710,726	1,060,461

増減＝予算額－前年度予算額